SNS等への無断転載・共有はご遠慮ください

学級園を里山のような場所にしよう!!

「里和田（さとわだ）」の取り組み

和田小学校支援本部と地域ボランティア

「和田小学校の学級園を里山のような場所にしよう!!」という目標を掲げて2024年から和田小学校支援本部が中心となって始めた畑活動です。学級園や花壇を定期的に整備することで、子供たちが自然に触れて遊び、学び、楽しく気持ちよく過ごせる場所になるよう、保護者・地域の方々と一緒に活動を始め、今年で3年目になります。

かつどう

里和田のメンバーは地域コーディネーターが4名、ボランティアが10名ほど。
在校生や卒業生の保護者・地域の方、30～80代の幅広い年齢層で構成されています。
活動日はだいたい月・水・金の午前9：30～11：30頃、中休みを中心とした時間帯の都合のよいとき。

1 環境負荷軽減にも配慮した 気持ちのいい場所づくり





・材料・道具の整理整頓
・計画的草刈り
・腐葉土づくり
・残渣整理　など

2 興味・関心に合わせて 伝える 見守る





・中休みのいきもの観察
・夏休みの子供の居場所
・地域保育園の活動場所
・地域の多世代交流

3 先生方と連携した、教材作物の 計画的な栽培とお手入れ





・連作障害に配慮
・作物に合わせた土づくり
・定期的なお手入れ
など

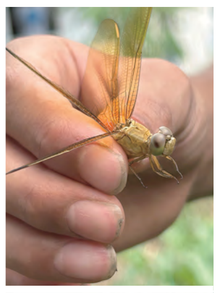
4 授業・委員会・課外活動など 環境学習の計画・実施サポート





・作物の作付け・収穫体験
・収穫作物の給食提供
・虫の観察授業
・雨庭の維持管理のサポート








つながり

先生方との連携をはじめ、地域の幅広い人たちとの連携・協力による里和田の活動によって、
学級園の困りごとが少しずつ解決に向かっているように思います。
環境づくりの専門家のアドバイスもいただいて、地域・環境にとっても多様な成果が得られました。

土が足りない



主事さんが集めてくださった落ち葉 ＋ お米屋さんにいただいた米ぬかや使用済み栽培土 ＝ 腐葉土ができました！ → 腐葉土で栽培したこだまスイカをお裾分け

もしかして？ 可燃ゴミ軽減

虫がいない



腐葉土に土壌生物が増えてきた ＋ 虫の好きな花を植える ＋ 野草は高刈りに ＋ 刈った草は畑の草マルチに ＝ 教科書に載っているみたいにいきもの観察ができた！

もしかして？ 雨庭効果

作物どうする？

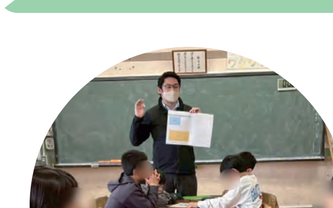


有志で植えたじゃがいも → 実験で使うのは葉っぱだけ → 休み時間を利用して6年生が収穫 ＋ 校長先生と給食の先生に相談 ＝ 給食のメニューになりました！

とっても おいしい

雨庭ビオトープ

2025年度、４年生の先生から「水害」単元について相談を受け、授業をサポート。
「グリーンインフラ」について学ぶ中で、子供たちから「雨庭をつくりたい！」という声が上がり、
杉並区と専門家チームのお力を借りて、いきものの集まる「雨庭ビオトープ」をつくることになりました。



コーディネーター 里和田の人

ゲスト講師

担任の先生をはじめ、いろんな先生方から「水害」に関連した事柄を教えていただきました。里和田メンバーはコーディネーターや授業サポーターとして関わりながら一緒に勉強しました。

子供たちからいちばん多く聞かれた質問が「ビオトープと雨庭の違いって何？」ということだったので、詳しく教えてもらいました。



引率 里和田の人

見学

神田川・環状七号線地下調整池



浸透実験



サポート 里和田の人

計画

水害対策に役立ちながら、いきものの集まる場所をつくりたいという子供たちの声によって、学級園に「雨庭ビオトープ」をつくることになりました。設計図もみんなで考えました。

専門家 児童 先生 保護者 地域の方
たくさんの人が関わってつくりました



施工！

つづく雨庭

子供たちの「やりたい！」という声に刺激を受け、雨庭づくりにはたくさんの大人が関わりました。
二日間の作業で出来上がった「雨庭ビオトープ」は、まだまだ未完成。里和田のメンバーと、
中休みや夏休み活動に遊びに来る子供たち、環境美化委員の児童たちで、日々、進化させています。

未完成



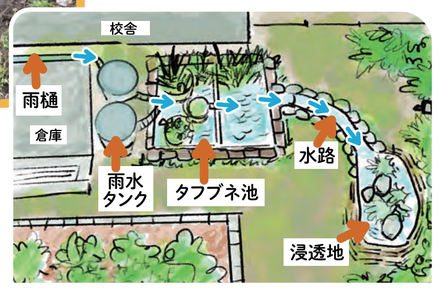


修理・改善



基礎をつくっていただいた「雨庭ビオトープ」は、子供たちの活動ですぐにあちこち崩れました。壊れにくい工夫などもしながら維持管理を続けています。





倉庫の屋根から雨樋を伝って雨水タンクに入った雨水が、タフブネの池に入ります。雨量が多くて池からもあふれると、水路を伝って浸透地へと流れる仕組みです。

遊びと学びの場に

